

わたしの
〇△X?

紙
面
批
評

電気新聞との直接の接点
がなくなつて七年が経過し
ました。それまで時々献文
を掲載していただいており
ましたが、原子力委員就任
とともに縁がなくなりま
した。といつぷりの遠慮する
のがいいと考えました。

最初に電気新聞との縁
が出来たのは、名古屋大学
に毎日届けて頂いたご好意
からです。いつか記者の方
にお会いしたとき、電気新
聞には漫画まであるのだから、テレビ欄を付けていた
だけは何となくことなしてす
ね、と最初の私らしいコメ
ント(紙面批評?)をした
ことがあります。単身赴任
の身には、ニュースはブレ
ビで十分、関係記事は電気
新聞が詳しく報じているの
で、これまた十分だったか
らです。スリーマイルアイ
ランド発電所事故が起って
一年ぐらいいびりな頃まし
た。申すまでもなく、この
期待がかなえられぬことは
ありませんでした。



原子力委員会委員長

藤家 洋一氏(ふじい
え・よういち) 1963年
東京大学大学院博士課程
修了、工学博士。80年名
古屋大学プラズマ研究所
教授、86年東京工業大学
原子炉工学研究所教授、
89年所長、95年原子力委
員会委員、98年委員長代
理、01年1月委員長。兵
庫県出身、66歳。

われわれも「顔を見せる努力」を

てからは定期的に何かを書
いたような気がします。

今回は紙面批評をするよ
うにこの依頼です。そんな
に紙面を読んではいません
とお断りするつもりが、例
によってたらたらと返事を
延ばしているうちに、「引き
受けたことになってしま
いました。

七年の間には多
くのことがありま
した。原子力にと
つては、ATR実
証炉の閉止、もん
じゅの火災、アス
ファルト固化処理
施設での事故な
ど、原子力委員会
の核燃料サイクル
政策の根幹となる
ところで問題が発
生しました。これらは当然
のことながら追い風になる
はずはなく、そのまま原子
力政策の遂行に社会的合意
が得られない状況を生み出
しました。このような社会
状況のなかで、原子力委員

「いつでも、どこでも
だれとでも」を念頭に

た原子力委員会は
「いつでも、どこ
でも、だれとでも」
をセールのスローガ
ン(売り文句?)に
するようになり
ました。先般原子
力委員の方々がお
聞きになれば、「よ
くもまあ」と感想
を漏らされるかも
しれません。それだけ原子
力発電、放射線利用の世界
が広がり、社会的課題を多
く含むようになったからで
しょう。

時代の變化の中で

社会的課題に对应

記事の多い一、二面とい
うような見識が示され、
面白くも、さすがに内容を
書くな一と思うほどな最
終面に焦点を置きながら、
少しずつ掃り新参の顔をお
見せしたいと考えていま
す。もちろん、人様にお見
せするほどの代物ではない
ことを十分認識しながらで
す。

藤家 洋一氏